

第9回 ITER 機構職員募集説明会(高知)での Q&A

1. 日時・場所

平成 20 年 9 月 4-5 日

高知工科大学 日本原子力学会秋の大会会場

2. 説明内容

(1)核融合工学部会総会において、ITER 機構職員募集および登録制度について説明。

(2)募集案内/登録案内の資料(パンフレットなど)を学会参加者に配布。

安東俊郎 ITER 協力調整グループサブリーダー

3. 配布資料:

(1)募集案内パンフレット

(2)募集ポジション一覧表

(3)登録申請フォーム

4. 核融合工学部会総会での説明

核融合工学部会総会の出席者 26 名全員に資料を配布して説明。

5. 学会参加者への資料配布

(1)学会事務局の了解を得て、資料配布スペースにおいて上記資料を配布。

(2)当初の予定になかったが、JAEA 産学連携推進部の展示ブースで、産学連携推進部のご厚意により、資料を配布し、面接ビデオを紹介した。

6. 主な Q&A

Q1:ITER 機構に今、日本人は何人いるのか? 目標は何人? 応募者は多いのか?

A1:現在 17 人。他に内定者が 2 名。これを倍増させるのが目標。応募者はこれまで 50 人程度と少ないのでどしどし応募していただきたい。

Q2:日本には 20%の枠があるのでは?

A2:取り決めでは約 20%の枠があるが、実際には欧州が 6 割程度、他の極は 1 割未満となっているので、こうやって採用者を増やすため支援活動を行っている。

Q3:ITER 機構職員の給料はどのくらいか?

A3:ITER 機構職員の給与は国連、IAEA などの国際機関の給与体系をベースにしている。かなりの高収入と思われる。

Q4:JAEA の職員以外でも採用されるのか? 大学関係者で応募した人はいるのか?

A4:一般公募なので、JAEA 職員でなくても応募できる。実際に一般から応募して採用された人はいる。大学関係者でも 10 人以上応募している。

Q5:採用されたらどこで働くのか?

A5:勤務地はフランスのカダラッシュになる。

Q6:カダラッシュではどこに住むのか？

A6:エクサンプロバンス、マノスクなどのカダラッシュ近郊の小都市に住むことになる。

Q7:応募者は日本のメーカーからが多いのか？

A7:メーカーも含めた企業関係者が応募者全体の半数を占めている。

Q8:どのような人材が多く求められるのか？

A8:募集が多いのはITER装置の建設を担当する研究者・技術者なので、これまで核融合装置の建設経験のある研究者・技術者が比較的多く求められる。

Q9:ITERの装置サイズ、建設コストはどれくらいか？

A9:ITER装置本体部分の直径が約30メートルある。建設費は約5000億円で、運転まで含めた全コストは約1兆3000億円と見積もられている。

Q10:日本はどのような機器を分担するのか？

A10:最も大きな分担は超伝導コイルであるが、その他に真空容器内部に設置するブランケット、ダイバータ、プラズマを加熱する装置、プラズマを計測する装置、遠隔保守機器、トリチウム除去設備の一部を製作する。全体の分担率は約20%となっている。

Q11:ITERプロジェクトは順調に進んでいるのか？

A11:建設サイトの整備は順調に進められ、すでに超伝導コイル用素線の発注が始まっている。まだ設計変更が一部必要であるが、2018年のプラズマ着火を目指して着々と進んでいる。